

2. 製薬協 産業ビジョン2025

製薬産業をめぐる環境変化等の背景および未来予測※1をもとに、10年後である2025年に製薬協および製薬協会員会社が目指すべきビジョンとして、製薬協産業ビジョン2025「世界に届ける創薬イノベーション」を定めた。

(図) 製薬協 産業ビジョン2025



そして、このビジョンを具現化するために、取り組むべき要素を5つに整理し、それぞれについて10年後のビジョンを定めた。

ビジョン1：先進創薬で次世代医療を牽引する～P4+1 医療への貢献～

ビジョン2：世界80億人に革新的な医薬品を届ける

ビジョン3：高付加価値産業として日本経済をリードする

ビジョン4：健康先進国の実現を支援する～心おきなく健康で長生きできる社会に～

ビジョン5：志高き信頼される産業となる

製薬協および製薬協会員会社は、製薬産業への期待に応えるために先進創薬を追求し、創薬イノベーションを実現することにより次世代医療を牽引してい

く（ビジョン1）。そしてその成果を、日本をはじめ世界中の患者とその家族、生活者に届けていく（ビジョン2）。

これらの実現の結果として、製薬産業は高付加価値産業として日本経済をリードし、日本の将来を担うに相応しい産業としてのプレゼンスを高めていく（ビジョン3）と同時に、これから日本が目指していく健康先進国の実現を支援していきたいと考える（ビジョン4）。

また、その過程においては、自らの志を常に高く持ち、各ステークホルダーからの信頼を得る努力を惜しまず、その信頼と期待に応えていく（ビジョン5）。

これらを実現することで創薬に資する好循環を生み出し、製薬協および製薬協会がその全総力を創薬イノベーションに投じていくことが、製薬協 産業ビジョン2025「世界に届ける創薬イノベーション」にかける想いである。

ビジョン1 『先進創薬で次世代医療を牽引する～P4+1 医療への貢献～』

科学技術の発展・波及によって、10年後の医療では個人データや疫学データに基づいた治療効果・安全性の予測が可能となり、通常よりリスクが高い因子を持つ場合の発症前治療やワクチンといった予防医療の重要性が高まっていることが予想され、これらの概念はP4医療として提唱されている。

このP4医療が今後10年間で飛躍的に進展すると考えられ、P4医療に資する革新的な医薬品を世界に先駆けて数多く創出していくことは、医療にとっても、また我々が国際競争に勝ち残るためにも非常に重要となる。

（参考）P4医療とは、アメリカで提唱されている先進的医療である。P4は「Predictive」、「Preventive」、「Personalized」、「Participatory」の略であり、予測的、予防的、個別化および参加型の医療を示す。個人の遺伝子情報およびバイオマーカーからの予測による予防的な医療介入、さらに、患者自身による情報の理解と医療への参加が提唱されている※2。

一方、既存技術の高度化・融合等も医療の質や効率を高めるためのイノベーションをもたらす上で重要であり、競争力を有する技術分野での継続した取り組みの強化が必要であると考え、我々はこれを「Progressive（進歩的）な医療」と表現し、P4医療にプラス1として独自に加えた概念「P4+1医療」を定めた。P4+1医療とは、早期診断・予測により、患者の理解のもと、患者ごとに最適な医薬品が適切なタイミングで提供される医療であり、我々の考える次世代医療である。

製薬協としては、例えば、日本においては国民皆保険制度のもとで網羅的で質の高いビッグデータを集積できるという強みを最大限活用すること等により、「P4医療」と「Progressiveな医療」の双方に資する創薬イノベーションを実現していきたいと考え、「先進創薬で次世代医療を牽引する～P4+1医療への貢献～」をビジョンとして掲げた。

ビジョン2 『世界 80 億人に革新的な医薬品を届ける』

医薬品の価値は国境を問わず普遍的なものであり、人口動態の変化や社会・経済のグローバル化の進展およびグローバルヘルスの高まりを背景として、2025年の世界では革新的な医薬品に対する需要が地球規模で高まっていることが予想され、製薬産業にはその期待に応える責務がある。これまでの日本企業のグローバル展開は比較的規模の大きい企業を中心であり、そのような企業の展開先も先進国に偏っている。創薬イノベーションで生み出された革新的な医薬品をいかに各国の状況に合った形で届けるか、そのためにどのような対応をすべきかについて検討した。

製薬協としては、経済状況、医療制度、社会文化等、医薬品を取り巻く環境は国ごとに異なることを認識しつつ、治療薬を切望する世界の患者からの期待に応えるため、自らが創出した革新的な医薬品を文字どおり世界中の人々に届けること、つまり、「世界 80 億人に革新的な医薬品を届ける」ことをビジョンとして掲げた。また、補論として、グローバルヘルスに対する使命と貢献についても述べる。なお、本ビジョンの到達年である 2025 年時点の世界人口は約 80 億人と予測されており、「世界 80 億人」という言葉に世界中の隅々にまで革新的な医薬品を届けたいという我々の想いを込めた。

ビジョン3 『高付加価値産業として日本経済をリードする』

資源が乏しく、また人口減少社会を迎えた日本にとって、科学技術や知的財産に立脚した国づくりが重要であり、なかでも製薬産業には高付加価値産業の代表として従来以上に日本経済を牽引していくことが期待されている。さらに、高付加価値産業としての存在感をいっそう高め、国や社会に重要な貢献を果たすことで、魅力ある産業として人材・技術・資金が集まり、成長の好循環を生み出すことが期待できる。

製薬協としては、会員会社それぞれが研究開発の合理化、多種多様な連携、そして、経営の効率化等を通じて生産性を高め、ビジョン1で述べた革新的な医薬品を創出し、ビジョン2で述べたグローバル展開をさらに推し進めることで日本の経済成長に貢献し、次代の日本を担う付加価値の高い産業となるべく、「高付加価値産業として日本経済をリードする」ことをビジョンとして掲げた。また、補論として、企業規模・再編に対する考え方を述べる。

ビジョン4 『健康先進国の実現を支援する～心おきなく健康で長生きできる社会に～』

世界各国の平均寿命が延び続け、そのなかでもトップを走る日本の社会の将来に世界が注目している。健康先進国とは、「すべての人が安心して生き生きと活躍し続けられるように、様々な暮らし方、働き方、生き方に対応できる国」※3、つまり、健康寿命が延伸するだけでなく、その恩恵を受けた人々の積極的な社

会参加が進み、また、医療や介護等においても納得性のある選択を行うことで、より質の高い人生を送ることが可能な社会であると考えます。

そして、健康先進国を支える社会保障制度が維持・継続されることが不可欠である。そのためには、社会保障はコストではなく国民への投資と位置付けられた上で積極的な取り組みが推進され、その概念および取り組みが世界をリードしていくことが期待される。

製薬協としては、健康先進国の実現に製薬産業として貢献したいと考え、「健康先進国の実現を支援する～心おきなく健康で長生きできる社会に～」をビジョンとして掲げた。

ビジョン5 『志高き信頼される産業となる』

2025年には企業の社会的責任（CSR：Corporate Social Responsibility）はますます高まり、また、CSRが経営・事業と融合していることが予想される。健全で透明性の高い事業活動を行うためのガバナンス体制を整備し、医薬品の品質確保および安定供給をはじめとする生命関連企業としての責務を果たしていかなければならない。また、革新的な医薬品の創出、それらのグローバル展開、社会経済および社会保障への貢献といった一連の活動において、透明性、倫理観、コンプライアンスに対する意識や志を製薬協会会員会社およびその社員ひとりひとりが自ら高める必要がある。

製薬協としては、これらの努力により、全てのステークホルダーから評価・信頼されている産業、その規範や取り組みが海外においても尊重されている産業となること、そして、創薬に希望を寄せる人、創薬を志す人、創薬に参加したいと考える人が増えることを目指し、「志高き信頼される産業となる」をビジョンとして掲げた。

[注]

- ※1 「10. 参考」を参照
- ※2 医薬産業政策研究所、「製薬産業を取り巻く現状と課題～よりよい医薬品を世界へ届けるために～ 第一部：イノベーションと新薬創出」産業レポート No.5（2014年12月）
- ※3 厚生労働省、「保健医療 2035 提言書」（2015年6月）